

## 役所が取り組む 2つのキーワード

▼現在、市が取り組んでいる財政立て直しの重点を、財政課に聞いてみました。

財政「1点目は、市役所の組織・機構のスリム化。

そのために必要なのが、地域の民間能力を活用した効率的な行政運営です。

つまり、民間ができる分野は順次委託に切り替えていき、人件費を一定の水準におさえるという考えです。

これを実現するためには、『行政と民間が、お互いの役割を認識するために論議をする』ことが重要なポイントとなります。

2点目は、使用料と手数料の適正化です。

そのために必要なことは、サービスと照らし合わせた料金の見直しです。

つまり、いまある公共施設の使用料や手数料を適正な水準に改正し、施設維持にともなう財政への負担を軽くするという考えです。

これを実現するためには、『施設の管理者(市役所)と利用者(市民)が適正な料金を設定するために論議をする』ことが重要なポイントとなります。

そして、『市役所全体で、事務経費の削減や事業の取捨選択など、常に見直しをし、市の健全な財政運営を図っていくこと』です。

## 平成13年度の目玉事業はなに？

やはり1番は温水プールで、事業費は約10億円です。

2番目は北光中学校の改築事業で、事業費が約7億5千万円となっています。これを聞いて、皆さんのなかには「施設が新しくなるのはいいけど、新たに借金を増やしても大丈夫？」と思った人がいるかもしれません。

市では、借金の増大によるこれ以上の財政状況の悪化を防ごうと、平成11年度に「公債費負担適正化計画」を策定しました。これら平成13年度の事業についても、この適正化計画に基づいて行われているため、計画外の借金が増えるということではありません。

また、これから行う事業についても、平成11年度に策定した「財政健全化計画」に定められた借金の範囲内で行われます。これにより、借金の返済は計画的に減少していくこととなっています。

## 健全な収支のバランス 市民協力も重要なカギ

▼では、市民は財政立て直しに、どのように関わっていけばよいのでしょうか？

財政「財政面からいえば、市に入る収入が減っている以上、市全体の支出を少しでもおさえること。

また、先に話した滞納金の収納率を上げることに協力して欲しいということですよ。」

## マイナスをゼロへ 市民参加の出発点

わたしが思う市民参加とは、まず市民一人ひとりが留萌市民として「やらなければならぬこと」と「やれること」を考え、実践するということです。

それには、自分が「留萌」とどう付き合っていくかを考える必要があります。そうして、見つけたことを、ひとつずつ実行していくのです。

そうすることで、皆さんそれぞれの「留萌に住む楽しさ」が自然に見つかるはずですよ。

それでも答えが見つからなかったり、なにかにつまづいたときは、

市役所に相談してください。わたしたちは「まちづくりのプロフェッショナル」なのですから。

▼ここでひとつ考えてください。現在、町内会または個人がボランティアで行っている「まちのこみ拾い」。

「もし、留萌にごみを捨てる人がいなかったとしたら……」

そうです、誰もゴミを拾う必要がないのです。

つまり、知らず知らず行っているマイナス部分を、わたしたち一人ひとりがマイナスからゼロに戻すことも、重要なことだということです。

## マイナスを抱えた事業 問われるサービスのあり方

平成12年度に、市(一般会計)がマイナス部分(収支不足)をおさえないながら運営した事業(特別会計)に、次のようなものがあります。

### 【下水道事業】

汚水管、雨水管が増設され、整備面積から見ると、平成12年度末の普及率は約55%となりました。し

【表2】各特別会計の平成12年度決算の状況

(単位:万円/%)

区分	歳入		繰入金の割合	歳出		差引
	歳入	うち一般会計繰入金		歳出	差引	
国民健康保険事業	18億0,657	2億0,731	11.5	18億2,237	△1,580	
老人保健事業	27億1,354	1億4,800	5.5	26億7,891	3,463	
介護保険事業	8億7,821	1億2,651	14.4	8億2,898	4,923	
港湾事業	3億7,241	8,344	22.4	3億7,241	0	
市場事業	1,585	1,017	64.2	1,585	0	
下水道事業	14億6,056	5億3,935	36.9	14億6,056	0	
神居岩スキー場事業	2,051	1,336	65.1	2,051	0	
合計	72億6,766	11億2,815	-	71億9,960	6,805	

※各数値ごとに端数処理をしているため、計算上合わない場合があります。

かし、水淡化率は約77%で、約23%はいまだ使われていない状況です。財源は下水道使用料のほか受益者負担金、市債などですが、収支不足分として約5億4千万円をおぎなっています。

### 【港湾事業】

三泊地区のふ頭用地整備が主な事業。財源のほとんどが市の借入金で、港湾施設の使用料や船舶の貸付料などの収入が、全体の約9%であるため、収支不足分として約8千3百万円をおぎなっています。

### 【神居岩スキー場事業】

利用者を増やすため、ナイター営業の見直しなど、利用環境の整備に努めてきましたが、利用者はさらに減少し、リフト使用料も約22%減となったため、収支不足分として約1千3百万円をおぎなっています。

### 【市場事業】

平成12年6月、沖合底引網漁業の廃業により、取扱数量及び金額が大幅に減少、使用料が約26%減少したこと、収支不足分として約1千万円をおぎなっています。

これらのマイナス部分を解消することも、重要といえるでしょう。

## 砂漠化をくい止めるのは「行政」、それとも「市民」

今回の取材を通して、いままでもわたしが考えていた以上に、市の財政が危機的状況にあることが分かり、自分の認識不足をあらためて感じました。そして、わたしが働いている市役所内で、どれだけの人々が市の財政を理解しているの、どうという疑問も浮かびました。

「るもい」というオアシスの湧き水は、けっして自然に湧いて溜まっていくものではありません。

それは、そこに住む者が汗水をたらして得た水を出し合い、有効に使いながらも、少しずつ溜めて

いくもの。そしてその水は、わたしたちの生活をうるおすために、無くてはならないものなのです。その水に限りがあるのならば、それをいかに有効に使っていくかが重要なポイントになるでしょう。

そして、その使い道を決めるには、「市民」と「行政」の論議が必要不可欠なのです。

このまま何も行動しなければ、いずれわたしたちの住むオアシスは砂漠化してしまうことでしょう。

そして、わたしたちの心も砂漠化してしまうのです。皆さんの目に、「オアシスるもい」は、どのようにうつっているのでしょうか……。